

NO 190

泉南走ろう会

先鋒 泉南スポーツ社
0724 (83) 46553

お知らせ

一、例会日

・十月十二日

種河神社 九時集合

コースは、和歌山城・高野山ウルトラマラソンに備え少し長く走る予定ニキロ程度

・十月二十六日

種河神社 九時集合
コースは未定

二、大会案内

・夏の暑さが過ぎ、いよいよマラソンにはもってこいの季節に近づいてまいりました。自分の目標を定め練習に取り組んで下さい。

・十一月二十三日

福知山マラソン 申し込みは済
泉南走ろう会からも何人が参加予定

・十二月七日

龍神マラソン(ハーフ)
申し込み受付中
完走後の露天風呂が最高です
ただし、年によっては寒さがきびしく雪が降ることもありませう。

明石海峡大橋を走ろう。
来年四月五日に開通する明石海峡大橋を記念し、ハーフマラソンが三月二十八日に行なわれることが決まり、十月一日から、参加者を募集をしております。
走ろう会の皆さん走りに行きませんか。ただし、参加出来るのは四十才以上です。

ハケ岳野辺山高原ウルトラマラソン記

まずは野辺山について紹介すると、長野県と山梨県の県境で、諏訪湖の南に位置し、標高一三五メートルにあるJR野辺山駅は、日本最高地の駅として有名で、まさに高原の町、その高原では野菜作りが盛んで、見学者にもスタスのおみやげがあった。
九月十三日の九時すぎに新家駅を出発、今回は、栗野原会長、徳山さん、岡田、イサハ、九月六日に結婚式をすませればガリの西さん夫婦の五名である。しかし今回も又台風の影響が気となる。おまけに三連休とあって高速度が混んでおり、昼食する時間もおしおし走り続け、野辺山に、五時半ごろ着き、早々に受付を済ませ旅館へ、このころには雨も本降りとなり明日の天気を心配しつつ八時すぎに床に着く。そして三時ごろに目をさますと昨夜の雨が嘘のように止んでいた。これも日頃の行いが良いからと話しながら、車でスタート会場へ。やはり高原で早朝のため、寒い。そして五時に喚声と共に約一〇〇〇人がスタート長一日の始まりである。ここで今回のコースを紹介する。五キロまでは、畑の中を走り、その後林道に入り、一八八〇m(二キロ)まで登る。そこから八八〇m(五キロ)まで下って再びだらだらと九七〇m(六キロ)まで登る。ここで、ここは一六二〇m(七キロ)まで登る。そして

二〇〇m(八五キロ)まで下り、後は一三五五mのゴールまで登る。ハードなコースである。途中にユケ所の折り返しがあり、最初の折り返し(三十五キロ)で徳山さんと生会い、二つ目(五七キロ)では、西さんと、応援バスに参加された西さんの奥さんの応援を受ける。その後再び徳山さんに、Iガ、会長の姿は見えないうつろの様にマイペースで走っているのだからと思いつつ走る。このころから足が動かなくなり、歩くこと、頻、おまけに足にマメが出来、最悪、そして追いつけず、雨も降り始める。このままでも時間内にゴールできるか、気に寄りだす。八キロ地点で九時向五分、ここまで来たのだから何とでも、ゴールだけはした、だからと走り又歩く、なんととも情けな、もっと練習をしておけば良かったのにと反省するが、後の祭、自分の意志の弱さを感じる。イサハさん、走る度に好記録を出している西さん、今回も十時間、切る走りを見せた。すじの一言、これは、強い意志と日頃の練習があるからである。「努力がなくて結果なし」である。
又この大会に同じ泉南市からも参加させられていたが、色々の大会記録で知ったと、イサハ、西さんを目標にしていると話されている。我々が泉南走ろう会を、なかなかのものですね、この人の名前前は忘れませんが、走ろう会に入会されると思っています。

岡田



駅集合が六時なのが七時と間違つて、岡田さんの電話であわてて荷物の用意をした。後から細々としたものが忘れており不便に思った。行程は西名阪から東名の御殿場インターに降り、「富士吉田市」へ入り富士山五合目まで車で登る。サポーター役は三名。会長と西さんの婚約者と私である。エントリ組の岡田さん、徳山さん、西さんはそのまま宿舎へ帰り明日に備える。私ら三名はランナーの着替え等預かり明日頂上でゴールを待つ。登山には天候が一番気に掛かる場所だが、幸いに絶好の天気である。二十数年ぶりにリュックを担ぎ、いざ！出発。肩にズシリと重みが掛かり、先行きに不安を覚える。しかし会長はベテランとはいえもつと重いリュックを担いでグングン登る。また素人のペースにあつた歩きをしてくれありがたかつた。登山道は火山灰と熔岩と入り混じつたようなガサツとした感じで歩きにくかつた。時計を忘れたため何時間たつたのかよく分からず、小休止しながら頂上を目指す。途中立ち止まって下界を見るとそこには人間が小さな虫のように見え、自然の雄大さが感じられる。空は何処までも遠く、遮るものがなく雲が手の届くところにフワフワと漂っている。この季節の『富士山登山』は普通の人でもビクニツク気分登るようだ。小学校低学年の子供からおじいさん、おばあさんまで『富士山』を登って行く。ツアーのようなグループもいた。引率の人は相当年配であるが登り慣れた感じだ。丁度よい時間に山小屋があつたのでそこに泊まることにした。日が暮れる富士山からの眺めは、心が洗われるような気分させる。しかしその夜の苦しみ(悪酔い)が待っているとはそのときは少しも考えなかつた。

苦しみの夜が明けて、ご来光の写真を撮るため外に出たがやはり寒かつた。気分もわるかつたので景色を楽しむ余裕がなかつた。まもなく頂上を目指し登り始めたが、案の定体に力がいらず遅れ出す。後半は曲がり角に來ると少休止を繰り返した。やつの思いで頂上に着くと想像以上に広く、レースもあるため賑やかだつた。下界を眺めると八合目の山小屋から頂上目指す人の列が数珠つなぎで続いている。今思うとよくここまで登れたと思つた。ランナーのトップがまもなくゴールするので見に行くと、やはり外国人である。体格は日本人と変わらないのだが、我が『泉南走ろう会』のトップは西さんだつた。余裕をもつたゴールだつた。いつもは坂が苦手と思つていたがレースとなると底力を発揮する。次は岡田さん。少し疲れたという感じだつたがしっかりと足どりだつた。その頃は次々とランナーがゴールして回りから拍手が起こつて明るい雰囲気だつた。制限時刻が過ぎてもランナーは続々到着していた。徳山さんが來ないので心配したが、そのなかに混じつてゴール。相当疲れた感じだつたが、登りきつた様子を見て、胸が熱くなつた。完走証はもらえなかつたが、完走は完走です。岡田さん、西さん、徳山さん、本当におつかれさまでした。

